

2017年、KDIGO CKD-MBDガイドラインが部分改訂された。2009年のKDIGO CKD-MBDガイドラインが発表された後に報告されたデータを叩き台として「それが診療上どのような有益性をもたらすか？」という視点で改訂が進められたという。

改訂には、近年使用が可能になった新規骨粗鬆症治療薬と新規カルシミメティクスの存在が影響を与えていると思われる。そしてこれらの動きは骨作動薬であるビタミンDに新たな焦点を当てることにもなっている。

とくに、近年の新規骨粗鬆症治療薬の進歩から、従来は使用が制限されていたCKD患者で骨量を増やす治療が現実的な視野に入ってきている。そうすると骨量測定で骨折のリスクを予知するというデータにも意義が見出せることになる。またCKD患者に骨折が頻発することは周知の事実であったが、今までは骨折予防という視点ではほとんど無策といわれても仕方がなかった。部分改訂において原発性骨粗鬆症診療のスキームを大胆に取り入れる方向に踏み出したことは画期的な方針転換であるといえる。

JSDTガイドラインでは血清P、血清Ca、血清PTHの順に管理することが推奨されたが、これは生命予後に与えるインパクトの大きさに加えて、介入可能なマーカーであることが重視された。新規骨粗鬆症治療薬、新規カルシミメティクスは血清Ca値に大きな影響を与えることから、血清P、血清Ca管理の視点もシフトしてきている。本号では、そのような視点からKDIGO CKD-MBDガイドラインの部分改訂を基にCKD-MBDガイドラインを再考している。

ただ、この方針変換は「低骨量に対して骨量を増やす治療を行う」というものであって、厳密に言えば骨質へのアプローチではない。CKDに特異的な骨質の異常とは何か？ それに対するアプローチは？ という問題は棚上げにされたままであり、したがってこれがCKD患者に対する脆弱性骨折予防策の最終形態でないこともまた確かであろう。道はなお半ばである。

(横山啓太郎)

巻頭言

永野 伸郎

特集／Calcimimeticsの新しい展開

連載／Co-medical staffsのためのROD

鈴木 正司

[2018年10月1日発行予定]

編集委員

深川雅史 重松 隆 宮本賢一 大藺恵一
福本誠二 稲葉雅章 田中 栄 横山啓太郎

編集顧問

黒川 清 鈴木正司 川口良人 福永仁夫
西沢良記 松本俊夫 中村利孝 秋澤忠男

編集協力者

富永芳博 風間順一郎 曾根照喜

腎と骨代謝

Kidney and Metabolic Bone Diseases

Vol.31 No.3 July

©2018年7月1日発行

定価：(本体2,900円+税)

●年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

●本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

●JCOPY<出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

発行人 増永 和也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64
神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代)FAX(03)3291-3904

編集直通電話(03)3291-3971(代)FAX(03)3291-3377

印刷所 シナノ印刷株式会社

広告申込所／株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 電話(03)3814-8541